

## 鳥類調査計画（案）

## 1. 目的

事業実施区域内の鳥類相を把握し、自然再生過程における群集構成変化を予測するための基礎資料を得ることを目的とする。

## 2. 調査項目及び方法

## (1) 鳥類調査

## 1) テリトリーマッピング

繁殖期に実施。およそ 1 km のルートを設定し、片側 25m（両側 50m）の範囲を観察しながら踏査する。同一ルート上を複数の調査員が 10 分程度開始時刻をずらして開始し、確認された種について、種名、個体数、発見地点の他、環境利用に関する行動等の情報を記録するよう努める。センサス中範囲外で確認された鳥種も補足的に記録する。

調査地の設定は表 1 に示した植生タイプの区分に従い、各タイプについてそれぞれ 1 ルート設定する。

調査回数は 1 ルートにつき 8 回（1 往復×2 名×2 日）とする。

## 2) ルートセンサス

繁殖期にテリトリーマッピングを実施したルートで、非繁殖期に実施。調査範囲は繁殖期同様、片側 25m（両側 50m）とする。発見地点は記録せず、種名や個体数等を記録する。

## 3) 夜行性鳥類調査

繁殖期に大台と弥山の 2 カ所で実施。夜間に一定時間鳴き声を確認する調査を実施（実施時間帯については検討中）。

## (2) 環境調査

## 1) 上層植生調査

各ルートの典型的な植生がみられる地点において数プロット設定し、樹種、樹林高、被度、階層構造等を記録。

## 2) 下層植生等調査

上層植生と同じプロット内の下層植生の種類、被度、群落高等を記録。また、腐植層の状況や構造等も調査する。

### 3) 土壤動物調査

地上採餌性鳥類の餌量把握のために、各調査地において一定量の土壌を採取し、そこに含まれる土壤動物の調査を行う。

### 3. 分析及びとりまとめ方針

各ルート of 環境パラメータと出現個体数やテリトリー数等との相関を解析。  
今後の自然再生過程における環境変化に対する鳥類群集変化の予測を試みる。

### 4. 調査時期

鳥類調査	テリトリーマッピング	6月上～中旬
	ルートセンサス	12月上旬
	夜行性鳥類調査	6月上～中旬
環境調査	上層植生調査	6月中～下旬
	下層植生調査	6月中～下旬
	土壤動物調査	6月中～下旬